



大ケ口地区の災害公営住宅はスギなどの地元産木材を多用して、木造ならではの温もりを感じさせる



復興の最前線

第1回 [岩手県上閉伊郡大槌町]



完成目前の大ケ口地区災害公営住宅の前で。右から、大槌町復興局用地建築課長・西迫三千男氏、UR都市機構大槌復興支援事務所・渡邊正彦、釜石地方森林組合参事・高橋幸男氏

災害公営住宅に地元産木材を活用 産業振興と雇用創出の効果も狙う

岩手県大槌町は東日本大震災で町長を含め町職員の約3割に当たる40人が犠牲・行方不明となった。復興の担い手となるはずの町職員が不足する中、UR都市機構は震災直後から支援スタッフを派遣し、仮設住宅の建設や復興まちづくりに取り組んできた。この8月、東日本大震災復興事業における同機構初の災害公営住宅が大ケ口地区に完成した。町民の定住を目指した建物は部材に地元産木材を多用して、「大槌らしさ」をデザインしている。

写真=井上 健 取材・文=茂木俊輔

岩手県大槌町の大ケ口地区災害公営住宅が、この8月に完成した。UR都市機構が東北の被災各地で展開する「災害公営住宅整備事業」の第1弾。震災で住まいを失った方々のための住宅で、濃い緑の山々に囲まれた川沿いの敷地には、木造平屋建てと2階建ての集合住宅計12棟が和風のたたずまいを見せる。

UR都市機構大槌復興支援事務所の渡邊正彦がこの地に赴任してきたのは2011(平成23)年7月のこと。地震発生から4カ月近くがたっていたが、町はまだ大きな混乱の中にあった。津波で多くの建物が流され、仕事の拠点となるような施設は全く見つからなかった。翌年1月、ようやく役場の仮設事務所の一面を仕事場として借りることができた。住まいを確保できたのはそれからさらに半年後。渡邊はほぼ一年間、近隣の釜石市など、わずかに営業している宿泊施設を転々としながら仕事を続けた。「食事はほとんどがコンビニで買ったおにぎり。この一年間だけで3年分くらいのおにぎりを食べました」と渡邊は笑う。

一刻も早い住宅建設を

UR都市機構の被災地での役割は、震災直後の仮設住宅の建設から、まちの高台移転、被災地のかさ上げ・再整備、被災者が定住できる公営住宅の建設など、多岐にわたる。新しいまちづくりについて住民の方々と協議したり、人手の足りない地元公共団体に代わって工事の発注や監理などを行うのも重要な役割だ。

建築技術者として長年、団地再生計画の現場などで指揮を執ってきた渡邊にとっても、被災地という特別な環境の中で、それらの業務をスムーズに進めていくことは決して容易なことではなかった。心を砕いたのは、地元の信頼を得ること。住民説明会ではどんな質問にも真摯に答え、本音で話し合える関係を築くことに努めた。仮設住宅で不便な暮らしを強いられている人たちに、一刻も早く快適に暮らせる住宅を提供したい。人手も時間も足りない中で、いかにスピードを上げて仕事を進めていくか。他の被災市町村に比べスタートが遅れていたこと

住み続けてもらう工夫

もあり、渡邊は2年間、常にそのことを最優先に考え続けてきた。大ケ口地区の災害公営住宅の建設が決まり、大ケ口二丁目、杵内町方の建設要請を受けると、渡邊はそれに専念する。大槌町、UR社内の計画・設計部隊と連携を図りながら仕事を進めた。

大槌町は震災で多くの住民を失っただけでなく、震災後の人口流出も続いている。「人口減少を食い止めるためにも、入居者の方々に長く住みたいと感じてもらえるような住宅にしたかったです」と、大槌町用地建築課長の西迫三千男氏はその狙いを語る。西迫氏も、震災後に大阪・堺市から駆けつけた応援部隊の一人だ。地元産木材の活用は、地元産の活性化と雇用創出の面でも効果が期待できる。供給は、地元の森林組合である釜石地方森林組合が担

当した。同森林組合も津波で事務所をすべて流された。組合長を含め4人の役員が犠牲になり、一時はその存続も危ぶまれた。それでも、残された役員は懸命になつて組織を立て直し、周辺の事業組合などと協力して供給体制を整えたのである。

「地元産木材を使って災害公営住宅を建設することが決まったことで展望が見えたのです。大口の需要が生まれたことで、一般の需要者に向けた供給体制も再び整えることができ、地元に新たな雇用を生み出すこともできました」と、笑顔で語る。

10月には屋敷前地区で同町におけるUR支援の災害公営住宅の第2弾が完成する予定だ。2カ所の災害公営住宅の完成は、今年度いっぱい定年を迎える渡邊にとって大きな区切りとなる。だが、渡邊の中でこれは通過点。本当のゴールはその先にある。「東北の復興はまだこれから。人手が足りずに遅れているところが数多くある」。渡邊の目には、すでに次の現場が見えているようだ。



大屋根を採用した和風の公営住宅

住戸内のような

大槌町におけるUR都市機構の復興まちづくり支援

復興市街地整備	地区名	面積
	町方	36ha

※面積は事業計画等の面積を表す(小数点以下四捨五入)

災害公営住宅整備	地区名	戸数
	大ケ口	70戸
	屋敷前	21戸
	大ケ口二丁目	22戸
	杵内	13戸
	町方(末広町)	52戸

※戸数は建設要請戸数(大ケ口、屋敷前地区は建設戸数)を表す
2013年8月19日時点